# １年　音楽科学習指導案

授業者　渡邊　莉加

**１．題材名**「うたで『さんぽ』にでかけよう」（歌唱）

**２．題材の目標**

○自然の中を元気に散歩する様子を表す歌詞と曲想との関わりに気づき、発音に気をつけて歌ったり伴奏に合わせて歌ったりする。〔知識及び技能〕

○歌詞や曲想の表す様子や気持ちから、どのように歌いたいか思いをもち、歌声や身体表現を工夫する。〔思考力、判断力、表現力等〕

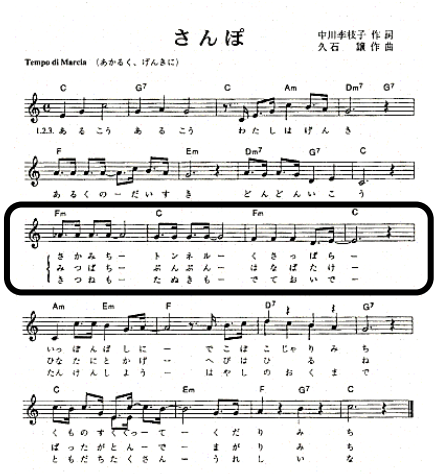
○思いをもって歌唱することを楽しんだり、友達の表現のよさを進んで見つけたりして音楽活動に主体的に取り組む。〔学びに向かう力、人間性等〕

**３．子どもと題材**

本学級の子どもは、歌ったり音楽に合わせて体を動かしたりすることが好きである。『かもつ列車』『ひらいたひらいた』『かたつむり』『大きなかぶ』など複数の曲を扱った「うたってうごいてみんなでおんがく」の学習では、教師の範唱を聴いて覚えた歌を大きな声で元気いっぱいに歌ったり、音楽に合わせて体を動かしたりする姿があった。さらに『大きなかぶ』の歌唱の際には、国語の物語の学習と関連づけ、登場人物になりきって歌おうとする姿も見られた。その中である子は、気持ちの違いを表現しようと「ぬけません」の歌詞を弱々しい声で歌い「ぬけました」の歌詞を元気いっぱいに歌った。またある子は、何度も登場する「よーいしょよいしょ、よーいしょ」の歌詞を後半にいくにしたがって力強い声で歌おうとした。『ひらいたひらいた』では、歌詞に着目したある子が「お花になりきって歌いたい」という思いをもち「つぼんだつぼんだ」の部分で体を丸めたり「ひらいたひらいた」の部分で立ち上がりバンザイのポーズをとったりした。さらに「閉じているときは小さい声、開いているときは大きい声」と、動きに加え声にも強弱をつけて、つぼみの様子を伝えようとしている子もいた。このように「こんなふうに歌ってみたい」という思いをもって表現する子や、それを学級全体へ広めようとする子がいる。また、友達の表現を真似することで歌唱活動を楽しもうとする姿もある。だからこそ、より歌唱活動を楽しむために、自分の思いをもとに表現の工夫を考えるよさや、友達と関わることでよりよい表現が生まれることを実感してほしいと考えた。

本題材では、中川李枝子作詞、久石譲作曲の『さんぽ』を扱う。スタジオジブリのアニメ映画『となりのトトロ』のオープニングテーマとしても知られており幼稚園や小学校など教育現場でも多く歌われている。この楽曲は様子を想像しやすい歌詞が魅力である。本学級の子どもは、生活科の「夏見つけ」の学習で実際に駿府城公園までの道のりを自分の足で歩き、歌詞の中に登場するでこぼこじゃりみち、くもの巣、みつばち、ばったなどを目にしている。また、本校は離れた地域から通学している子どもも多く、登下校の時間に様々な道や生き物に出会っていることが考えられる。入学当初はその長い道のりを子どもだけで歩くことに冒険心を抱き、ドキドキわくわくした気持ちで登下校をしていた子どもも多くいたかもしれない。実際に自分の目で見たり体験したりしたことが歌詞の中に多く使われていることにより、比較的生活経験の少ない１年生の子どもであっても様子を想像しやすいと考える。また「わたしはげんき」という歌詞から、散歩しているのは自分自身であるという気持ちにもなるだろう。自分事として歌うことで、子どもは「こんなふうに歌ってみたい」という思いをよりもちやすくなると考える。他にも、歌詞と曲想との関わりが分かりやすいことも本題材の魅力の一つである。ハ長調の明るく元気な曲調は、散歩を楽しむ「わたし」の前向きな気持ちを表現し、旋律の中に多用されている符点のリズムは、どんどん前に足を進めていく軽快さが表現されている。楽譜の３段目に進むと、ハ長調には含ま

れないラ♭（A♭）が登場し、跳躍の少ない旋律へと変わることで、曲想が先ほどよりも少し落ち着いた暗い印象を与える。これは低学年の子どもにも感じ取りやすい曲想の変化である。歌詞でいうと「さかみち　トンネル」「みつばち　ぶんぶん」「きつねも　たぬきも」など新たな場所や生き物と出会う内容が描かれている部分であり、予想外の何かが待ち受けているのではないかというドキドキ感や、散歩が進む中で新たな場所へ足を踏み入れるわくわく感が表現されている。歌詞と曲想との関わりが分かりやすいことで、子どもは「こんなふうに歌ってみたい」という思いをもつだろう。




このように『さんぽ』は、本学級の子どもにとって様子を想像しやすく、歌詞と曲想との関わりが分かりやすい魅力的な題材である。一人ひとりが「自分が散歩をしているつもり」で歌唱活動に取り組むことにより、歌詞や曲想の表す様子や気持ちから「こんなふうに歌ってみたい」という思いをもつはずだ。そして、その思いをもって歌唱する中で、声色（音色）や強弱を変化させたり身体表現を取り入れたりするなどして、自分なりに表現の工夫を考え、楽しむ姿を期待したい。

## ４．本題材における『その子らしく学ぶ』

本題材の導入で子どもは、スタジオジブリのアニメ映画『となりのトトロ』で使われた３つの音楽『ねこバス』『風の通り道』『さんぽ』と出合う。「音楽に合わせて動いてみよう」と投げかけられると、速度・強弱・リズム等の音楽を形づくっている要素の働きを感じ取り、小走りで動き回ったり、ゆっくり左右に揺れてみたりと、曲に合わせて動きを変化させていくだろう。

教師に「『さんぽ』はどんな様子を歌った歌なのか」を問われると、まず歌詞に着目するはずだ。歌詞の中から「さかみち」「でこぼこじゃりみち」「くだりみち」などの道の様子を表す言葉や「みつばち」「とかげ」「ばった」などの出会った生き物を表す言葉を見つけ、様子を思い浮かべながら絵を描き始めるだろう。歌詞からはどの子もある程度共通した様子を想像すると予想されるが、それをどう捉えるかは子どもによって様々である。例えば、ある子は一本橋を「危なくてわたるのが怖いもの」と考え、ある子は「わくわくする楽しいもの」と考えるかもしれない。くもの巣をくぐることを「楽しい」と考える子もいれば「汚い」と考える子もいるだろう。歌詞に描かれたことだけでなく、歌詞を通してこのような一人ひとりの生活経験や価値観による考え方の違いまでをも共有しながら、より深く『さんぽ』の様子や気持ちを理解していく。そして「様子が伝わるように虫や動物を真似する動きを入れて歌ってみたいな」「『ともだちたくさん』では友達と肩を組んでみようかな」など「こんなふうに歌ってみたい」というその子なりの思いをもち始めるだろう。

『さんぽ』を歌唱する中で、１番～３番を通して物語が続いていることや、散歩をしながら新たな場所や生き物に出会う展開であることに気づき始めるはずだ。そして、楽譜３段目のラ♭（A♭）から始まる旋律が、予想外の何かが待ち受けているのではないかというドキドキ感や、新たな場所へ足を踏み入れるわくわく感を引き立たせていることを知り、その曲想の変化を感じ取りながら歌唱していく。また練習する中で友達の表現にふれると「動きは大きい方が伝わるな」「動きだけじゃなくて歌い方も工夫してみよう」と今の自分の表現を見つめ直すかもしれない。そして「もっと相手に伝わるように歌いたい」と自身の思いをより一層強め、目指す表現を更新していくだろう。

教師に「この後（３番以降）はどんな場所やどんな生き物に出会うのかな」と投げかけられると「もっとたくさんの動物が出てくると思うよ」「日が暮れてお家に帰るんじゃないかな」「突然、雨が降ってくるかもしれないよ」など『さんぽ』の物語の続きを豊かに想像し始めるだろう。そして同じような展開を想像した友達と共に「あるくのだいすきどんどんゆこう」に続く４番の歌詞を考え始める。「家への帰り道の物語」にしようと考えたグループは「トンネルを通って始まったから、またトンネルを通って帰ろうよ」「楽しかった時間が終わるのは寂しい感じ」と考えを出し合いながら替え歌づくりの活動に

向かっていくはずだ。「友達が増えていく物語」にしようと考えたグループは「うさぎを登場させたいな」「動物だけじゃなくて虫も入れようよ、カブトムシは？」と考えを出し合い「うさぎは３文字だから『も』を入れて４文字にしようか」「カブトムシは５文字だからどうやって歌えば合うかな」など虫や動物の名前をリズムに当てはめて歌い、登場させる生き物を選ぶかもしれない。そして、グループでの替え歌づくりを行う中で、自分たちで考えた歌詞を旋律にのせて何度も歌ってみながら、リズムや旋律に合う言葉を吟味していくだろう。ある程度歌が完成すると、単元終盤の発表会を意識してこれまでの経験を生かしながら、声色（音色）や強弱を変化させたり身体表現を取り入れたりするなどして、表現し始める。「この歌詞は友達がもっと増えて嬉しい感じだから一番元気に歌おう」「うさぎやこぐまの動きも入れてみよう」など、どんなふうに歌ったら様子や気持ちが伝わるかといった表現の工夫についてもグループで話し合い、目指す表現に向かって協働的に練習を進めていく姿を期待している。

『さんぽ』にでかけよう（歌の発表会）では、それぞれのグループが練習してきた替え歌を聴き合う。互いの歌を聴きながら「自分たちのグループにはない道や生き物が出てきて面白かった」「みんなで手をつなぐのが楽しそうでよかった」と他のグループの表現のよさを感じ取るはずだ。

音楽表現は、思いやそれによって生まれた表現が必ずしも友達と同じものではなく、違っていてもよいという自由なところに魅力がある。だからこそ、自分の経験や感性をいかして表現するだけでなく、友達の表現に出合うことで音楽表現の幅を広げ、感性を高めていってほしい。また、その関わりの中で自分の思いが表現を通して他者に伝わり、共感されたり価値付けられたりする経験をすることで、音楽活動にとどまらず今後の学校生活の様々な自己表現の場の自信にもつながることを期待する。

**５．題材構想**（全７時間扱い／本時は第⑥時）

＜教師の投げかけ＞　子どもの表れ　最終時における子どもの表れ

①　＜　トトロの音楽に合わせて動いてみよう　＞

・忙しい感じがするから走ってみよう！　・ゆっくり揺れよう
・夜みたいな感じ。寝てみよう　・スキップしたくなってきた

＜　『さんぽ』を歌ってみよう（斉唱）　＞

・幼稚園でも歌ったことがあるよ。明るくて楽しい歌だな
・動きながら元気に歌えたよ

②　＜　『さんぽ』の１番はどんな様子を歌った歌かな　＞

・「わたしは元気」だから元気よくお散歩に出かけているのかな
・トンネルもくもの巣もあるしちょっと暗い場所かな
・ぼくはトンネルやじゃりみちを歩くのわくわくするな

＜　どんなふうに歌ったら様子や気持ちが伝わるかな　＞

・元気が伝わるように腕を大きく振って歌ってみるよ
・「さかみちトンネル」は小さい声でドキドキした感じにしよう
・トンネルは友達と手をつないで表してみようかな

③　＜　『さんぽ』の２、３番はどんな様子を歌った歌かな　＞

・みつばちやばったが出てきたね。花畑も広がってる
・へびが昼寝するくらい暖かい日なのかな
・きつねとたぬきとも友達になれてうれしそうだね

＜　どんなふうに歌ったら様子や気持ちが伝わるかな　＞

・虫や動物の動きを入れて歌ってみたいな
・３番が一番うれしそうだから一番大きな声で歌いたい
・「ともだちたくさん」では友達と肩を組んでみようかな

○教師の働きかけ

○様子の違いを感じ取ることができるよう、曲想が大きく異なる３曲を用意する。
○歌詞や旋律を視覚的に捉えることができるよう、楽譜を配る。また正しい音程を掴めるよう、階名唱をする。
○歌詞の表す様子を想像できるよう、登場する場所や生き物を絵で描く時間を設ける。
○自分のペースでくり返し歌唱できるように、伴奏のみ、伴奏＋旋律（歌あり）、伴奏＋旋律（歌なし）の音源をiPadで流せるようにしておく。
○身体表現に工夫が偏りそうな場合は、歌い方の工夫にも気づけるよう「わたしは元気」の歌詞を「わたしは○○（悲しい・嬉しい）など別の感情に変えて、声で表現する活動を行う。

④　　＜　友達と『さんぽ』を聴き合おう　＞

・元気な声で歌っていていいなと思ったよ
・大きく動いていて生き物や道の様子が伝わってきたよ

＜　みんなで『さんぽ』に出かけよう（斉唱）　＞

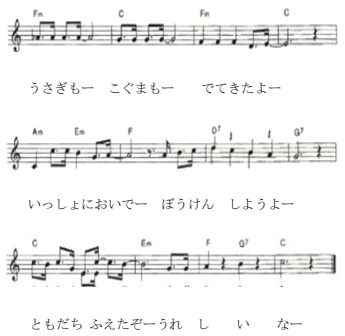
・本当にお散歩しているつもりで元気に歌えたよ
・様子が伝わるように頑張って歌えたよ
・みんなの歌い方や動きの工夫もよかったよ

＜　この後はどんな場所や生き物に出会うのかな　＞

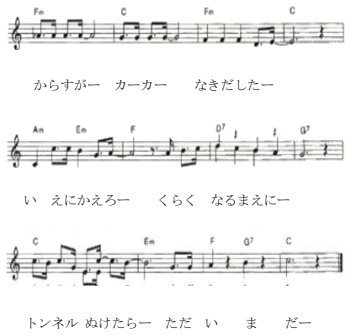
・もっとたくさんの動物が出てくると思うよ
・日が暮れてお家に帰るかも
・〇の数（リズム）に合う生き物ってなんだろう？

⑤⑥（本時）＜　グループで『さんぽ』の続きを考えよう　＞

【例】友達が増えていく ver.




【例】家への帰り道 ver.




・「うさぎ」は３文字だけど「うさぎも」にしたら４文字にできそう
・１番でトンネルが出てきたから４番もトンネルを通りたいな
・歌詞は考えられたけど本当に歌えるかな？みんなで歌ってみようか

＜　どんなふうに歌ったら様子や気持ちが伝わるかな　＞

・友達がもっと増えて嬉しいから一番元気に歌おう！
・うさぎやこぐまの動きも入れてみよう
・「みんなでぼうけん」はグループみんなで手をつないで歌おう

⑦　　＜　　『さんぽ』にでかけよう（歌の発表会）　＞

・自分たちのグループにはない道や生き物が出てきて面白かったよ
・みんなで手をつないでいるのが楽しそうでよかったよ
・他のグループが考えた歌も歌ってみたいな

・歌詞を覚えて元気に歌えたよ。みんなの声や伴奏にも合ってた
・歌詞に合わせて動いたり歌い方を変えたりするのは楽しいな
・どうしたら工夫が伝わるか考えて、大きく動いたり歌ったりする練習をみんなでがんばったよ
・グループで考えた歌が友達に伝わってうれしかったよ
・これから歌う曲も工夫をしながら歌ってみようかな

〇思いをもって歌うことのよさや自身の成長を実感することができるように、振り返りとともに自分の歌声の録画や録音を残しておくよう声かける。

〇１～３番の歌詞とつなげて替え歌を考えることができるように、新たな場所や生き物と出会うという共通のテーマを設定する。またその部分（楽譜３段目）では曲想が変化していると気づくことができるよう、旋律のみを弾く。

〇考えの似た友達と替え歌づくりの活動ができるよう、前時に一人で考える時間を設け、それをもとに意図的なグループを組む。

〇旋律に合った歌詞づくりができるよう、音符の下に〇が書かれた楽譜を配付する。〇の数に歌詞が収まらない場合も、歌うことができれば許容する。

〇替え歌を完成させることよりも、どう歌うかという表現の工夫に時間をかけることができるよう、上手く言葉が当てはまらずに困っているグループへは教師がかかわり、リズムへの当てはめ方や他の言葉の候補を一緒に考えていく。

〇他のグループの発表を聴く際には、歌詞だけでなく、どのように表現を工夫していたかに意識を向けることができるよう、発表前に工夫を口頭で伝える時間を設ける。